

CITY OF YOKOHAMA

メタバースによる 小児がん患者の交流支援

～小児がん患者へ安全・安心な交流の場を～

小児がんとは

- ・小児期（一般的に0歳～15歳まで）にかかる、さまざまな「がん」の総称
- ・多種多様な種類があり、病名では白血病、悪性リンパ腫、脳腫瘍など
- ・1年間に小児がんと診断される数は、**全国2,080人、市内49人**（2020年）

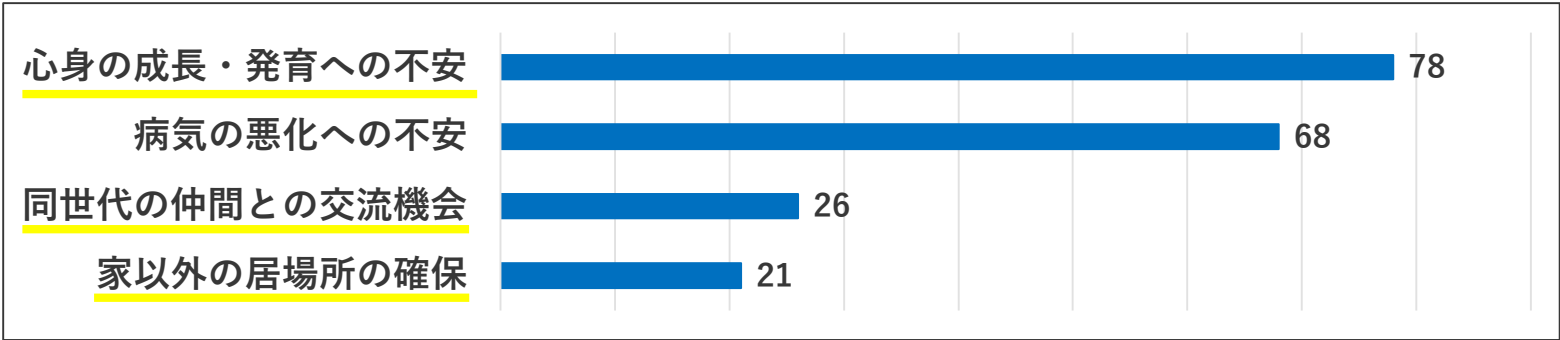
小児がんの治療

- ・長期入院や入退院の繰り返し、外来の場合も**治療期間が長い**ことが多い。
- ・再発や合併症のチェックのため、
**一定の治療を終えた後も、長期にわたって定期的な
外来受診が必要。**

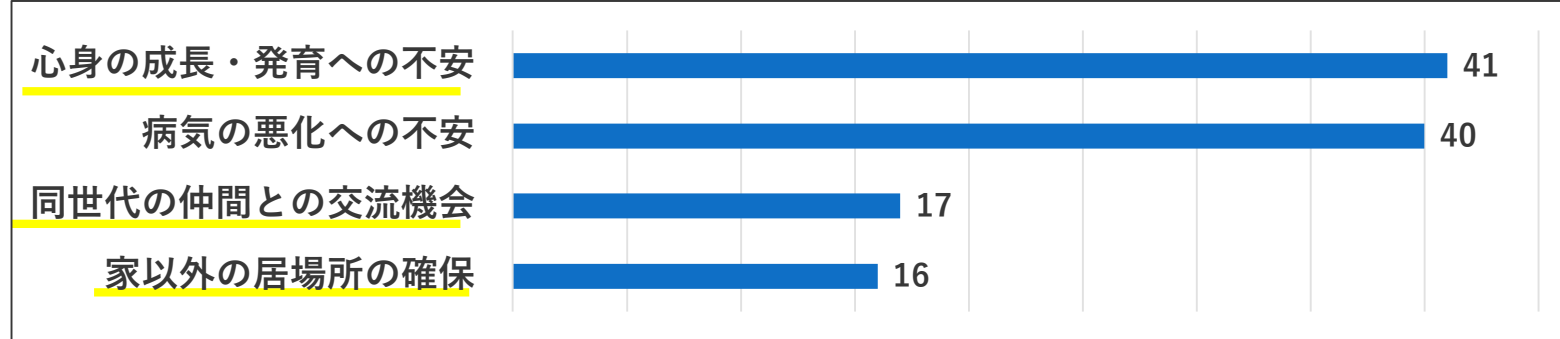
▶ 成長期の子どもにとって大きな負担に

アンケートから見る小児がん患者の実態①

入院中の不安や悩み（保護者回答 複数回答可） N=89



在宅生活での不安や悩み（保護者回答 複数回答可） N=49



アンケートから見る小児がん患者の実態②

アピアランスに関する不安

○治療後または治療中の日常生活における困難に
「外見の変化」を挙げた保護者 **59%**

外見を気にせず、心を支える交流の場が必要

NEW

▶ **対面ではない、
メタバースによる交流を新たに試行**

メタバースとは

インターネットを利用した「仮想空間」でユーザーが自分の分身となるアバターとなり、交流やサービスを楽しむ場所

メタバース交流体験の試行実施

趣旨

- 参加者の感想や要望を踏まえて、小児がん患者が安心して楽しみながら参加できる、メタバースによる居場所づくりを検討
- チームで協力しながらゲームにチャレンジする中で、患者同士のコミュニケーションの活性化を図る

対象

小児がんなど小児慢性特定疾病の患者・患者のごきょうだい 50人程度を想定

実施日

令和6年8月21日(水)13:30~15:00(夏休み期間)

【プログラム】

- ・ オリエンテーション
- ・ ゲームによる交流
- ・ 表彰式

アクセス方法

ご自身のスマホまたはPCから、家や病院など好きな場所からアクセス
VRゴーグルなど特別な機器は必要なし

企画協力

【監修】

上智大学総合人間科学部心理学科 横山恭子教授

【協力】

横浜市小児がん連携病院

- ・ 神奈川県立こども医療センター
- ・ 恩賜財団済生会横浜市南部病院
- ・ 横浜市立大学附属病院

内容

【ストーリー】

横浜の光が突然消えてしまった！
宇宙で力を合わせて横浜の光を取り戻そう！

【プログラムの流れ】

- ガイドスタッフの引率の下、4～5人のチーム※でゲームにチャレンジ
- 最初にオリエンテーションでチームの親睦を深める
- チームで協力して、3つの惑星のゲームをクリア
- クリア後は、交流時間や表彰式で、参加者全員で交流

オリエンテーション & 表彰式会場



ゲームステージの全体図

チームで話し合いながら、3つの星をクリアします

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

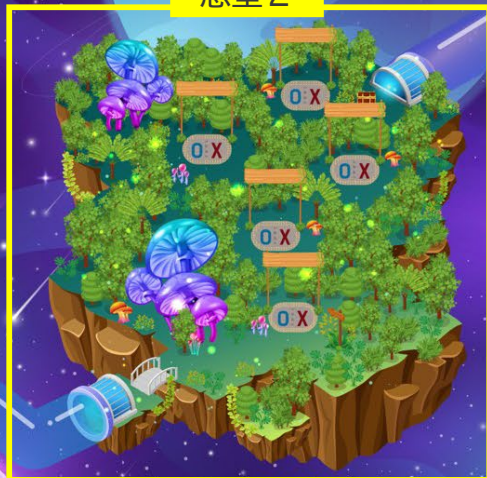
パズルを解いてキーワードを発見

惑星3



〇×クイズを解いて迷路を脱出

惑星2



隠されたアルファベットを発見

惑星1



YOKOHAMA

ツバ

ホタルカニ

ラクダ

サーパンダ

お気をつけてご乗船ください!

入場

会場入口

メタバースにより、小児がん患者が
安心して楽しく過ごせる居場所をつくります

【将来の展開例】

- 顔が見えないことをいかして、コミュニケーションを活性化
- 外出できない子どもの、幅広い交流を可能に
- 学習など教育的な要素の補完
- 専門家によるカウンセリングなど悩み相談
- 小児がん経験者の運営への参画